更に何等の結交曲業を事するみとなし是れ水遠に於て至民の政敵たるを疑はず此際熟なる總督にして若し率に其精神を鼓舞待の外交術に注射するを以て世界の平和は遂に爲めに確立するを得るに至るべけん

日本水雷艦隊の著大なる成効は國論を動し延いて國論の價値及び之が一切の動作を輕視するの傾向既に生じ來りたるは要するに止むを得ざる所なりとす

オーブ提督及びシャルメー氏等に論ずる佛國の少壯派は思ふに其豫言したる所の靖く明白に眼蓋の上に現出したるにつきて狂せん。するの狀にあるものならん此派の機關紙たる好小雑誌マターン フランセーズは其が他等の名文と論法とを用ひて之に乘じ散派に其意旨を與へんことを謀るは蓋し事實に無からざる所なり然れども亦英國にありては大なる經驗と使命とを有する人の間にも種々の事情上海は且つ水雷の功力及び水雷の危險を輕視するの狀あるは之を認めざるべからず水雷無心家の主張する所及び之が反對論者の唱道する所とには之が間に其可否を決するに足るべき未だ明確なる實驗の存するみとなし實習に當りて少壯の一少佐が旅艦に水雷の數隻を載み以て其他等を海底に沈めんとの國より思ひ寄らず其出張する所りも は殆ど信ずるに能はざるものあり其艦隊は同時として解止し海の各艦悉明らかとして常の如くに潜きこ夏の水雷艦隊の爲めに襲せられたる外何等特異の警戒加へらるゝみなく解餘の輕快船は皆抱内に却けられ艦隊を乘げて之を敵に附せんとせり當夜清朗、海靜にして月明なり次いで起りたる事態に至りては我等の物質的諸動を知る日本軍乃ち亟れり其蓋れるは之が放てる水雷の與へたる衝動に依りて初めて之を知らされたるなり

其既に行ひたる失機を以てして何は足れりとするみとなく露國軍艦は匆忙として其探海燈を點せり燈中に驟然として其輪廓を浮動せしめたるものにして日本をして爲めに益〻其標的を明にするを得せしめたり露國の艦艇は一として曉天に至るまで運動したるものなきが如く徒に好働の艦隊を以て運命の受働的機械たるに委したり日本が其最良軍艦より擇びて順次に艦艇を下したるは固より其所にして之が結果に至りては既に我等の知れる所の如し即ち殆ど悉海機を以て目すべきもの此一夜の間に得られ且つ失はる

斯くの如くにしては此以外の結果蓋し之を期するもの能はざりしなるべし戰闘艦をして昔時の三層木造船たらしめ水雷艇を以て又石火矢船たらしむるも尚ほ且つ斯くの如けん總し

やの爲めに提督を列ぬべしと云ふものあり

も亦三層木造船を非なりとするものあらざるべく戰爭機關として戰鬪艦の功力は今何は非と聊なるみとなく之が爲めに意味を增減されたるみとあるなし

之を要するに露國軍艦は何故に外洋に出でざりしや戰術上より云へば即ち日本海軍を恐怖したるに依るものなり然らば其故如何即ち敵の戰闘艦隊が彼の如き其害を受けたるもの其原因優勢なる戰闘艦の直接者迫にありと爲すみとを得べし然れども其理由平に之を備すれば露國艦隊が彼の如き其害を受けたるもの其原因優勢なる戰闘艦の直接者迫にありと爲すみとを得べし然れども其理由を以て直に水雷艦の働用を獲得するみと能はず戰爭の技術に於ては一事一物に當その能を待ち一事一物みな其能を用ふるの所を有す露國人が心意の狀態は汽船ラムピアの行ひたる動作に依りて之を判するみとを得べしコラムピアは即ちアレキシーフ總督より出航禁止の命を受けたるものにして船内には爲めに守兵を附せられたりと然るに戰闘艦に及び船長は其爲したる僧號の驕ぜざりしを見て擅に私に其守兵を廢せたる儘艦を扱いて芝罘に航走せり總督命令の此違反に對しては何等の注意の加へられたるみとなし憤慨は港口に座礁したるに似たり爲めに其港口を閉塞せるや否やは目下未だ明ならず

○タイムスの日露戰爭批評（四）

タイムスの軍事批評が其二月十三日發行の紙上に於て論じたる所左の如し

昨日露彼得堡に於て發表されたる十一日發アレキシーフ提督の電報は旅順口に起りたる劇詩的事變の史上に更に其一頁を添加したり九日の戰闘は十日に於て反覆されざりしが如く中間の夜は靜穏に經過したるに似たり十日巡洋艦に從ひて偵察は行はれたりと雖も更に敵艦を發見するみと無かりし九日に於て其戰闘を開始したる後東郷提督の艦隊は何れに赴けるやは凡て想像の問題として存するのみ露國人が心意の狀態は汽船ラムピアの行ひたる動作に依りて之を判するみとを得べしコラムピアは即ちアレキシーフ總督より出航禁止の命を受けたるものにして船内には爲めに守兵を附せられたりと然るに戰闘艦に及び船長は其爲したる僧號の驕ぜざりしを見て擅に私に其守兵を廢せたる儘艦を扱いて芝罘に航走せり總督命令の此違反に對しては何等の注意の加へられたるみとなし憤慨は港口に座礁したるに似たり爲めに其港口を閉塞せるや否やは目下未だ明ならず

然るもホワイトはレーノルド氏より其筆を授けられて果して如何の事を爲し得るものぞ我が海軍に於ては最新式水雷の發射器を增大し進路さた其精密を加へて破壞力亦頗る強烈なるみとを一人として知らざるものあるみとなし戰艦に抗するに堪へたる最も完全なる準備を有するみと疑なし且つ一人の新聞記者活動せる敵を探へ潜伏せる艦隊を密探し探偵して國家の軍艦を失ふを敢てせんとするものあらんや旅順口の戰爭は之を要するに近時學術の進歩海だしく遂に或る國民中には空前に漸式器を使用するみと能はざるものあるの域に達したるみとを示すの外何等の事實を表明するものにあらず此等の國民に取りては戰艦及び水雷たると戰爭船及石火矢たると其間に甚だ區別あるみとなし

旅順口に起りたる事件の顛末即ち如何、露國の艦隊は明に敵彼得堡より其命令に接したるものなるべし一たび港を出でゝ海に航し後歸りて二月四日岸上砲臺掩護の下に其艦を繫ぎ五日に至りて日本即ち商船を捕獲し其積載されたる利益に對しては之を保護する爲め其行動を執るに至るべきを以て露國に通告せり是れ畢ち戰爭を意味するものなり此事報せて六日の官報（露國）にあり然るに露國の艦隊に至

にして一たび警報官の否拒する所とならば少壯士官は唯々として退き潔り其肩に聳かして若し之をして戰ならしむれば其結果の大に異るものあらざるべからざるを思ひ自ら慰むるの外なきなり既往の戰爭に於て諸線板非の功績を現し以て少壯海軍將校に其名を爲さしむるに堪へたりし一切の氣慨と勝略は曾移して之を水雷戰爭に用ふるを待べく此點に於て水雷戰爭は此等の將校に與へるものなり旅順口の示す所に據れば其成効の結果は殆ど外洋に於ける艦隊戰爭の勝利にも匹敵するに堪へたるものあり是を以て旅順口に於ける日本勝利の結果は自ら此か水雷熱心家に其熱心を倍增せしめ益〻之が擴張を謀じて且つ之を戰闘に用ふるの方法を疎ぜに至らしむるものならざるべからず然れども徒に狂熱するのみとなく冷に推論して旅順口の戰爭は今日まで未知に屬せしものを聊も證明したるにあらず又何等の事態にも變更を與へたるものにあらざるを認知するみとして又切要ならずとせず戰爭は技藝なり藝術家にして名手にあらざるよりは更に生命ある作物を出すみと能はず土工ホワイトなるものは露國の敵軍に當蜜に出入すれば畢ち戰爭を意味するものなり此事報せて六日の官報（露國）にあり然るに露國の艦隊にして常にモデルとして使用されたり

○タイムスの日露戰爭批評（五）

（二月十三日所載軍事記事の所論）（編輯）

旅順が戰傷中に「此戰鬪に參加せざりしオーロラの艦上にありたる」負傷候補生云々（記者曰く同日のタイムス電報欄に掲載するアレキシーフ總督の公報中には戰鬪中負傷したる海軍砲兵中佐サポンチョースキー及び此戰鬪に參加せざりしオーロラの艦上にありたるペトロフラ候補生は快癒に向ひ居たり云々とあり）とあるは寧ろ解し難きに似たり此巡洋艦に就て最近に聞知せる所は即ち一月廿二日寧波にありたりと云ふにあり同日東方に向け出發したる趣にして其後の事に就ては更に報告に接せず同艦は比較的新造軍艦にして廿浬の公稱速力を有す紙上に於ては之を以て八日夜に既に旅順口に達し居たりとするも必ずしも奇ならず然れども如何に露國建造の巡洋艦に其價値を認むると雖なるも之に十八浬の海上速力を保持し得たりと見るみと既に其機度にして是れにては未だ其到着を八日に豫期するみと能はず是を以てか此軍艦を旅順口の艦隊中に算ふるには其前に先づ之に關する詳報を待ざるべからず思ふにオーロラと云ふは運送船アンガラと其名の相似ぜられたるものにわらざるか

みの間に於て大陸への日本軍隊輸送は更に其一歩を進めたるみと最早や確信するに堪へたり尙ほ嚴密なる檢閲を經て我等の許に達する通信員の電報に對し其言外の意味を探ぐるに陸戰上の發展は又海軍の打擊の如く迅速なるものあるべし云々との鋭利なる觀察者よりタイムスに與へたる警告は即ち之を以て陸軍の決戰的行動目前に踏期され居るものなりと爲すみとを待べし此觀察者は附言して曰く「海戰の狀況は頗る注意に堪へたり」と云ふ意は其行動を先了し其成功を明確にする爲め軍隊の軍艦に引續き居れるを意味するものならざるべからず廣大なる海面に既に露國軍艦をして其影をだも止めしめざるを得たるを以て日本は今唯其上陸地點に關して之が選擇に逃へるのみなるべし然れども打擊を加へ得べき適當距離内に於ては露國の其軍隊を密集せしめ居れる地點二箇あるのみ一は旅順口にして一は則ち鴨綠江なり第一回の陸戰は必ず此兩地點に對して起されざるべからず唯日本參謀本部の計畫に至りては何事の未だ發表されたるものなく又打擊の下らんとする時機切迫し居れるを警告するに堪へたる形跡更に存するなし但し戰備せる露國の敵を長驅せしむるに足る所以は即ち海陸兩軍の交互に行動するみとなくして各箇同時に相呼應し全力を用ひて其敵に當り根本よりして其敵を覆し得るの威力を有するにわりとす海軍のみを以てしても優に大軍を擁するに堪へたり然れども其力の海岸に至りて止る迄は究る能はざる所にして決勝的戰鬪即ち敵をして和を乞はざるべからざるに至らしむる戰鬪は其武力を陸海双方に相平均せしめて之が共同せる恐るべき敵力を用ふるみとを得べき海國にわらざれば必ず之を爲すみと能はず此力の實量に其兵力を乘じたるもの即ち之を以て軍事的動力なりとす重量の大なるに從ひ速力の又大なるに從ひて敵をして益〻其打擊に堪ふるみと能はざらしむ

率直に之を云へば日本は英國の實戰に學ぶ所わりて大に之を改良したるものなり我等は曾て少なからざる戰爭を經常に海上に於ては猛烈に且つ迅速に打擊を加ふるに成効したり然れども陸軍に至りては開戰の劈頭に於て海戰に次ぎ直に其動作を爲し得たるみと頗る稍なり否實て之なしと云ふも亦過言にわらずとす之が爲め今日迄で常に長期に亘りて而も危險にして且つ高價なる戰爭を行へり日本は即ち居れるものなるみと之を想像するに難からず是を以てか日本艦隊は今既に他の任務を取るに至りたるやも亦知るべからざるなり此點よりして之を云へば去る十日夜遼東灣の西海岸奏臺鳴沖に於て十五隻の日本艦船見受けられたり云々との天津よりの報頗る注意するに堪へたり一方に於て我等は未だ曾て此戰鬪に於て日本の受けたる損害につき聞知する所わるなし海岸砲臺既に戰鬪に加はりて些少ながら其損害を負ひたる以上は日本軍艦の之が砲火を受けたるみと亦明白なり本朝發表されたるタイムス特別通信員の戰海軍電報に據れば日本艦隊旅順口の港外錨地に面せる砲火に歸し居れり旅順口の港外錨地に面せる砲臺は武器の點に於て頗る怖るべきものわり港口東面の丘上には六箇乃至八箇の砲臺あり約五十門の砲を備へ西面亦略ぼ之と等しく砲臺に於ける最大砲の口徑は其大さ日本艦隊の有する最強砲の口徑と相如けり露國艦隊は即ち其海岸を距るみと一哩半以内の海面に於て其運動を行ひたるが如くなりと雖も東鄉提督は長距離より之に對戰して海岸に接近するみとは之を避けたるに似たり斯の如くにして海岸砲臺よりの彈丸遠きみと其極にわりしを以て之が危險は甚しく大ならざりしなるべし然れども高く其位置を取れる海岸砲臺の砲火の下にわりて艦隊と交戰するは危險なち難たるを免れず之が爲めに此戰鬪の公報は必ず鶴首して待たるべきなり今日迄で露國は未だ一隻の日本艦船だも之を破壞したるを主張せず露國と雖も其砲火の與へたる結果は之を注意するに堪たるものなるべし然らば此種の成効存する場合に於て豈之を云はざるの理わらんや提督の電報は又他の風說を傳へり曰く瀋州に於て其電信線切斷されたりと此事は明に尙早なりと斷ずるを憚らず然れども小部隊に依りて鐵道及び電線の攻擊さる〻事實は既に切迫し居れるが如くなれば相當の時日を經て必ず其事を見るに至るべきか寧遠、元山、馬山浦間の電信線切斷されたりとの報も亦本日之を得たり多分元山、馬山浦の兩地に日本兵の上陸したるに依るものならん長崎、浦鹽斯德間海底電線の不通となりたるは一交戰國の土地より他交戰國の土地に直接通ずる線なるを以て是れ必然の事なりとすべし

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/